

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特刊2001-211267

(P2001-211267A)

(43)公刊日 平成13年8月3日(2001.8.3)

(51) Int.Cl.7

H0 4M 11/00

H04N 1/32

識別記号

303

FI

H0 4M 11/00

H04N 1/32

子-71-1* (参考)

303 5C075

Z 5K101

完全積求 未積求 積求項の数19 Q.L. (全 19 頁)

(21) 出願番号 特願2000-18151(『2000-18151』)

(22) 出願日 平成12年1月27日(2000.1.27)

(7) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72) 發明者 多田 秀也

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

(74) 代理人 100075292

井理士 加藤 卓

Fターム(参考) 50075 AB03 AB06 AB08 BA08 CD07

CD18 EF04 EF90 G209

5K101 KK01 KK07 LL03 LL12 Q002

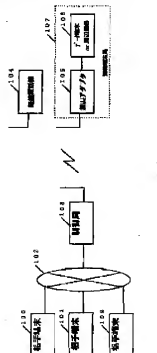
0008

(54) 【発明の名称】 通信装置、通信装置の制御方法、および通信装置の制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体

(57) 【要約】

【課題】 三者通話中に容易な操作により、高い互換性で簡単安価にファクシミリ通信などのデータ通信を行なえるようにする。

【解決手段】 制御局 103は、公衆網 102 (ISDN) の 2Bチャネルを用いて、相手端末 100、101、108の 2局と接続し、ハンドセッティングは、無線電話機 104などの間で三者通話を行なわせる。三者通話中に、ファクシミリ原稿を抽出した対応相手局の回線を選択させ、選択された回線を用い、全ての相手局にファクシミリ送信を行なうが、新たに電話番号が入力されている場合はその回線を取りまして入力電話番号の相手局にファクシミリ送信を行なう。また、三者通話中にファクシミリのモデム信号を抽出した場合は、あるいは、回線表示に基き手動回線選択操作が行なわれた場合に、当該モデム信号を受信した回線、または選択された回線からファクシミリ送信を行なう。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも1つのデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置において、

発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御手段と、

発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御手段と、

前記第1および第2の通信制御手段を用いて三者通話を行なう三者通話手段と、

前記三者通話中にデータ送信すべきデータの有無を検出するデータ検出手段と、

前記第1の通信および第2の通信の回線情報を表示する表示手段と、

前記表示手段に表示される情報を基にデータ送信を行なう回線を選択する回線選択手段を有し、

前記回線選択手段により選択された回線に対してデータ送信を行なうことを特徴とする通信装置。

【請求項2】 前記データ通信がアナログモデム信号を用いるファクシミリ通信であり送受信されるデータがファクシミリ画像データであることを特徴とする請求項1に記載の通信装置。

【請求項3】 ファクシミリ送信すべき原稿を検出する原稿検出手段によりファクシミリ送信すべき原稿を検出した際、前記回線選択手段を起動することを特徴とする請求項2に記載の通信装置。

【請求項4】ダイヤル情報を入力するキー入力手段を有し、前記回線選択手段により回線が選択された後、キー入力手段よりダイヤル情報が入力された場合、前記回線選択手段により選択した回線を切斷し、空いた回線を用いてデータ通信を行なうことを特徴とする請求項1に記載の通信装置。

【請求項5】 少なくとも1つのデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置において、

発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御手段と、

発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御手段と、

前記第1および第2の通信制御手段を用いて三者通話を行なう三者通話手段と、

前記三者通話中にデータ受信を行なうためのデータ受信手段と、

前記第1の通信および第2の通信のモデム信号を検出するモデム信号検出手段と、

前記モデム信号検出手段の検出結果に基づきデータ受信を行なう回線を選択する回線選択手段を有し、

前記回線選択手段により選択された回線からのデータ受信を行なうことを特徴とする通信装置。

【請求項6】 前記第1の通信および第2の通信のアナ

ログ信号を合成／分離するスイッチ手段と、

前記三者通話中はスイッチ手段により合成されたアナログ信号を前記モデム信号検出手段に接続する第1の接続手段と、

前記第1の通信のアナログ信号のみを前記モデム信号検出手段に接続する第2の接続手段と、

前記第2の通信のアナログ信号のみを前記モデム信号検出手段に接続する第3の接続手段を有し、

前記三者通話中に第1の接続手段の接続中に前記モデム信号検出手段によりモデム信号を検出した場合、第2の接続手段または第3の接続手段により前記モデム信号検出手段を接続してモデム信号を受信した回線を検出し、

モデム信号を受信した回線からのデータ受信を行なうことを特徴とする請求項5に記載の通信装置。

【請求項7】 少なくとも1つのデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置において、

発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御手段と、

発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御手段と、

前記第1および第2の通信制御手段を用いて三者通話を行なう三者通話手段と、

前記三者通話中にデータ受信を行なうためのデータ受信手段と、

前記第1の通信および第2の通信の回線情報を表示する表示手段と、

前記表示手段に表示される情報を基にデータ受信を行なう回線を選択する回線選択手段を有し、

前記回線選択手段により選択された回線からのデータ受信を行なうことを特徴とする通信装置。

【請求項8】 少なくとも1つのデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置の制御方法において、

発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御工程と、

発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御工程と、

前記第1および第2の通信制御工程を用いて三者通話を行なう三者通話工程と、

前記三者通話中にデータ送信すべきデータの有無を検出するデータ検出工程と、

前記第1の通信および第2の通信の回線情報を表示する表示工程と、

前記表示工程で表示される情報を基にデータ送信を行なう回線を選択する回線選択工程を有し、

前記回線選択工程により選択された回線に対してデータ送信を行なうことを特徴とする通信装置の制御方法。

【請求項9】 前記データ通信がアナログモデム信号を

用いるファクシミリ通信であり送受信されるデータがファクシミリ画像データであることを特徴とする請求項8に記載の通信装置の制御方法。

【請求項10】 ファクシミリ送信すべき原稿を検出した際、前記回線選択工程を起動することを特徴とする請求項9に記載の通信装置の制御方法。

【請求項11】 前記回線選択工程により回線が選択された後、ダイヤル情報を入力するキー入力手段よりダイヤル情報が入力された場合、前記回線選択工程により選択した回線を切斷し、空いた回線を用いてデータ通信を行なうことを特徴とする請求項8に記載の通信装置の制御方法。

【請求項12】 少なくとも1つのデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置の制御方法において、

発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御工程と、

発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御工程と、

前記第1および第2の通信制御工程を用いて三者通話を行なう三者通話工程と、

前記三者通話中にデータ受信を行なうためのデータ受信工程と、

前記第1の通信および第2の通信のモデム信号を抽出するモデム信号抽出工程と、

前記モデム信号抽出工程の抽出結果に基づきデータ受信を行なう回線を選択する回線選択工程を有し、

前記回線選択工程により選択された回線からのデータ受信を行なうことを特徴とする通信装置の制御方法。

【請求項13】 少なくとも1つのデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置の制御方法において、

発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御工程と、

発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御工程と、

前記第1および第2の通信制御工程を用いて三者通話を行なう三者通話工程と、

前記三者通話中にデータ受信を行なうためのデータ受信工程と、

前記第1の通信および第2の通信の回線情報を表示する表示工程と、

前記表示工程に表示される情報を基にデータ受信を行なう回線を選択する回線選択工程を有し、

前記回線選択工程により選択された回線からのデータ受信を行なうことを特徴とする通信装置の制御方法。

【請求項14】 少なくとも1つのデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能

およびデータ通信機能を備えた通信装置の制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体において、

発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御工程と、

発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御工程と、

前記第1および第2の通信制御工程を用いて三者通話を行なう三者通話工程と、

前記三者通話中にデータ送信すべきデータの有無を検出するデータ検出工程と、

前記第1の通信および第2の通信の回線情報を表示する表示工程と、

前記表示工程で表示される情報を基にデータ送信を行なう回線を選択する回線選択工程を有し、

前記回線選択工程により選択された回線に対してデータ送信を行なうための制御手順を格納したことを特徴とする通信装置の制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体。

【請求項15】 前記データ通信がアナログモデム信号を用いるファクシミリ通信であり送受信されるデータがファクシミリ画像データであることを特徴とする請求項14に記載の通信装置の制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体。

【請求項16】 ファクシミリ送信すべき原稿を検出した際、前記回線選択工程を起動するための制御手順を格納したことを特徴とする請求項15に記載の通信装置の制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体。

【請求項17】 前記回線選択工程により回線が選択された後、ダイヤル情報を入力するキー入力手段よりダイヤル情報が入力された場合、前記回線選択工程により選択した回線を切斷し、空いた回線を用いてデータ通信を行なうための制御手順を格納したことを特徴とする請求項14に記載の通信装置の制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体。

【請求項18】 少なくとも1つのデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置の制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体において、

発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御工程と、

発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御工程と、

前記第1および第2の通信制御工程を用いて三者通話を行なう三者通話工程と、

前記三者通話中にデータ受信を行なうためのデータ受信工程と、

前記第1の通信および第2の通信のモデム信号を抽出す

るモデム信号検出工程と、
前記モデム信号検出工程の検出結果に基づきデータ受信を行なう回線を選択する回線選択工程を有し、
前記回線選択工程により選択された回線からのデータ受信を行なうための制御手順を格納したことを特徴とする通信装置の制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体。

【請求項19】 少なくとも1つのデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置の制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体において、

発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御工程と、

発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御工程と、

前記第1および第2の通信制御工程を用いて三者通話を行なう三者通話工程と、

前記三者通話中にデータ受信を行なうためのデータ受信工程と、

前記第1の通信および第2の通信の回線情報を表示する表示工程と、

前記表示工程に表示される情報を基にデータ受信を行なう回線を選択する回線選択工程を有し、

前記回線選択工程により選択された回線からのデータ受信を行なうための制御手順を格納したことを特徴とする通信装置の制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ISDN（統合サービスデジタル網）のようなデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置、その制御方法、およびその制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、ISDN（統合サービスデジタル網）が広く普及しつつある。ISDNの基本インタフェースでは、64 kbpsの2本のBチャネル、端末・網間で発信信制御などに用いられるDチャネルから成るいわゆる「2B+D」の複数のチャネルを利用することができる。

【0003】従来より、この「2B+D」の複数のチャネルを同時に用いて三者または会議通話が可能なシステムが考えられている。

【0004】たとえば、特開平06-253028号公報には、網が提供する会議通話サービスへの加入料などの負担なく会議通話を行なえる簡易な三者通話システムが記載されている。同公報記載の技術では、会議装置を

使用せず、各加入者の端末がリレー式に発呼し通信バスの設定を順次行ない、網からの下り音声を合成して送信することにより会議通話を行なう。

【0005】また、特開平06-261198号公報には、会議通話のように動画情報の交換と音声情報の交換を実行しているときに、ファクシミリ送信要求が生じた場合に、非標準プロトコルによりファクシミリ通信に用いる通信スピードを決定し、動画情報、音声情報の交換の実行を停止させることなく、かつ、データの送信時間が長くなるのを防止する技術が開示されている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】三者通話、あるいは会議通話の場合、通話中に文献や資料などの内容を確認するために（ファクシミリ方式などによる）画像通信を行ないたい、という需要は当然予想されるが、従来技術では、このような需要を満たし、かつ互換性が高く、簡単安価に実施できる通信方式は提案されていない。

【0007】たとえば、上記のうち、特開平06-253028号公報記載の通信システムでは、音声情報または画像情報等を合成することにより、網によるサービスを受けることなく三者会議を行なえるが、一旦、音声情報または画像情報を流すバスを設定した後に、異なるデータを送信する手段については開示がなく、たとえば三者通話中に、任意の相手にファクシミリを送りたい場合には、三者通話中の相手に対して切斷を要求するしかない。

【0008】特開平06-261198号公報の場合には、三者（会議）通話の接続中に呼接続を切替えることなくファクシミリ送受信を行なうことが記載されているが、ファクシミリ送受信開始前に非標準プロトコルによる制御を行なう必要があり、構成が複雑高価になるとともに、非標準のプロトコルを用いるために、同一のシステム同士以外では当該の機能を利用することができない、という問題があった。

【0009】本発明の課題は、三者通話を行なうとともに、その通話中に容易な操作により、高い互換性で簡単安価にファクシミリ通信などのデータ通信を行なえるようにすることにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】以上の課題を解決するために、本発明においては、ISDN（統合サービスデジタル網）のようなデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置、その制御方法、およびその制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体において、発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御、および発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御を行ない、前記第1および第2の通信を用いて三者通話を行なわせ、前記三者通話中にデータ送信すべき

データの有無を検出し、前記第1の通信および第2の通信の回線情報を表示するとともに、前記表示工程で表示される情報を基にデータ送信を行なう回線を選択し、前記回線選択工程により選択された回線に対してデータ送信を行なう構成を採用した。

【0011】あるいはさらに、前記データ通信がアナログモデム信号を用いるファクシミリ通信であり送受信されるデータがファクシミリ画像データである構成を採用した。

【0012】あるいはさらに、ファクシミリ送信すべき原稿を検出した際、前記回線選択を行なう構成を採用した。

【0013】あるいはさらに、前記回線選択により回線が選択された後、ダイヤル情報を入力するキー入力手段よりダイヤル情報が入力された場合、前記回線選択により選択した回線を切断し、空いた回線を用いてデータ通信を行なう構成を採用した。

【0014】あるいは、発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御、および発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御を行ない、前記第1および第2の通信を用いて三者通話を行なわせ、前記第1の通信および第2の通信のモデム信号を検出し、前記モデム信号の検出結果に基づきデータ受信を行なう回線を選択し、選択された回線からのデータ受信を行なう構成を採用した。

【0015】あるいは、発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御、および発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御を行ない、前記第1および第2の通信を用いて三者通話を行なわせ、前記第1の通信および第2の通信の回線情報を表示し、表示される情報を基にデータ受信を行なう回線を選択し、選択された回線からのデータ受信を行なう構成を採用した。

【0016】

【発明の実施形態】以下、図面に示す実施形態に基づき本発明を詳細に説明する。以下では、ISDNおよびPHS/PTT/AFSによるネットワークを用いたシステムを例示する。

【0017】〔第1の実施形態〕

〔システム構成〕本発明による通信システムのシステム構成図を図1に示す。本通信システムは、主に制御局103、無線電話機104、無線端末局107から構成される。

【0018】制御局103は、公衆網〔ISDN〕102を収容し、システム内に公衆網通信サービスおよびG3ファクシミリ通信機能を提供する。制御局103の構成は後で図2を用いて詳述する。

【0019】無線電話機104は、制御局103との間で無線により制御データ又は音声データと交換し、公衆網102を介した音声通話を行うと共に、複数の端末局

間でいわゆる内線通話を行なう。

【0020】無線端末局107は、無線アダプタ105とデータ端末または周辺機器106から構成される。無線アダプタ105は制御局103との間で制御データの通信及びデータ通信を行なう。データ端末または周辺機器106は無線アダプタ105に接続され、無線アダプタ105を介してデータ送受信を行なう。

【0021】音声情報または画像情報等のデータの送受信を行なう相手端末100、101、108は公衆網102を介して接続される。

【0022】上記のうち、データ端末または周辺機器106とは、データをバーストに送受信する機能を有する端末機器（データ端末）もしくはデータ入出力機器と無線通信を司る無線アダプタ105を接続可能なものを指しており、たとえばコンピュータ、マルチメディア端末、プリンタ、ファクシミリ、複写機、LANゲートウェイの他に、電子カメラ、ビデオカメラ、スキャナ等の機器が該当する。

【0023】以下、上記の各構成部材の詳細な構成と動作につき説明する。

【0024】〔1〕制御局

図2に図1の制御局（制御局端末）103の内部構成を示す。

【0025】図2において符号201は主制御部であり、制御局103の全体制御を司るとともにタイマ計時手段を有し、通信の管理を行なうとともに各無線端末局の管理を行なう。

【0026】符号202はROMであり、本発明に係る制御プログラムが格納されている。ROM202は本発明の記憶媒体に該当するものである。

【0027】符号203はRAMであり、主制御部201の処理で端末種別情報や通信の状態を記憶するなど制御のためのワークエリアおよびファクシミリ通信時に受信したデータの格納および送信時に読み取った原稿のデータを格納するための画像メモリとなる。なお、本実施形態において、RAM203は1つのブロックとして記載しているが、ワーク用のRAMと画像用のRAMと複数のメモリブロックを有すること当然考えられる。

【0028】符号204はデジタル回線インタフェース部であり、公衆網〔ISDN〕102からの64Kbpsの2Bチャネル、すなわちBチャネル2本（以下それぞれB1チャネルとB2チャネルと記載する）と16KbpsのDチャネルの「2B+D」のデータを受信するためのDSU(Digital Signal Service Unit)を含む。デジタル回線インタフェース部204は、AM1信号等のシリアル信号を受信し、フレーム中のデータ部を取り出しPCM信号および制御データとして、所定のタイミングでデジタルスイッチ部205、および主制御部201にデータを出力量るとともに、デジタルスイッチ部205からのPCM信号および主制御部

201からの制御データを所定のフレームに構成し、公衆網102に送信する。

【0029】また、デジタル回線インタフェース部204は、LAPD (Link Access Procedure on the Dchannel) のプロトコルにより、主制御部201を介しての相手端末との通信において、呼制御と呼ばれる制御データのやり取りをDチャネルを用いて行なうとともに、LAPB (Link Access Procedure on the Bchannel) のプロトコルにより、音声データ、および画像データの送受信をBチャネルを用いて行なう。

【0030】また、デジタル回線インタフェース部204は、内部にHDLC (High-level Data Link Control) 制御手順を有し、ISDN網を介し、Bチャネルを所定のフレームに組み立て、64Kbpsの通信速度で、あるいは同時に2つのBチャネルを使用して、128Kbpsの通信速度で非制限デジタルによるデータ通信を行なうことができる。

【0031】符号205はデジタルスイッチ部であり、無線通信処理部206間のPCM信号とシリアル通信コントロール部221間のシリアル信号の切り替えを行い、シリアル信号をデジタル回線インタフェース部204を介してB1チャネルまたはB2チャネルを用いてシリアルデータの送受信を行なう。

【0032】符号206は無線通信処理部であり、一般にチャネルコーデックまたはベースバンドICと呼ばれるデバイスを用いて構成される。無線情報処理部206はADPCM符号化された情報に、スクランブル等の処理を行なうと共に、所定のフレームへの時分割多重化、後述するRF部207の送受信の切り換え、周波数切り換え等を制御する。また、関与受信処理、キャリア検出、レベル検知、ビット同期を行なう機能も有する。

【0033】この無線通信処理部206で、無線フレームに組み立てられて変調部により変調されたデータがRF部207を介して目的の無線端末(図1の104あるいは107)へ伝送される。また、内部にPCMインタフェース部を有し、アナログ信号-PCM信号間のCODER-DECODERの処理を行なう。また、無線通信処理部206は無線によるデータ通信を可能にするためのPIAFSプロトコルにより、ISDN網、または無線電話機からの32Kbpsまたは64Kbpsのデータ通信を行なうことができる。本無線通信処理部206の詳細は図3を用いて後述する。

【0034】符号207はRF部であり、無線通信処理部206から入力される送信データにより変調されたRF(高周波)信号を無線送信可能な形式に変換してアンテナに送ると共に、アンテナより無線受信した信号から変調されたデータを復調し、無線通信処理部206に出力する。

【0035】符号208はアナログスイッチ部であり、主として音声信号の経路切り換えを行なう。すなわちアナログスイッチ部208は、主制御部201からの制御によりモデム部212からの信号や音源部209、ハンドセット210、スピーカ211などのアナログ部の入出力信号の無線通信処理部206に対する出力切り換えを行なう。

【0036】符号209は保留音またはDT(ダイヤルトーン)、BT(ビジートーン)、RBT(リングバックトーン)等のコールプログレストーンを出力するための音源である。

【0037】符号210は通話用のハンドセットであり、音声の入出力を行なう。

【0038】符号211はスピーカであり、着信音や記憶した音声データの出力およびFAX通信時のモータを行なう。モデム部212はG3規格に基づくファクシミリ送受信を行なうためのものである。キー入力部213はダイヤル番号等を入力する0～9および*、#等のダイヤルキー、ファクシミリを送受信を制御する送信、受信キー、回線のON/OFFを制御するオフフックキー、その他保留キーや機能設定を行なうためのセレクトキー等のキーから構成される。

【0039】符号214は表示部であり、時刻の表示や通信中の回線の表示およびエラーの表示等の状態の表示を行い、主に液晶等で構成される。

【0040】符号215はフック検出部であり、特にハンドセットのON/OFFを検出し回線ON/OFFを制御する。

【0041】符号216は感熱型、熱転写型プリンタ、あるいはレーザービームプリンタ、インクジェットプリンタ等の公知の記録方式による記録機構から構成された記録部であり、主にファクシミリ画像の記録出力に用いられる。このために、記録部216はMH、MR、あるいはMMR符号化されたデジタルデータを復号化する機能を有し、復号化したデータを記録出力することができる。

【0042】符号217は、CCDあるいは密着型センサアレイおよび原稿搬送系など公知の原稿読取手段により構成された読取部であり、原稿から読み取ったアナログデータをデジタルデータに変換する。読取部217は主にファクシミリ画像の読取りに用いられる。このために、MH、MR、あるいはMMRなどの符号化方法により読み取った画像データを符号化し出力することができる。

【0043】符号218は原稿検出部であり、読取部216上の送信原稿の有無を検出し、その結果を主制御部201に通知する。

【0044】符号220で示されるブロック(破線内)は、ファクシミリ画像の入出力、およびユーザインターフェースのための手段を構成し、オペレーションパネル

を有する1つのユニットとして構成することが考えられる。

【0045】符号219はアドレスおよびデータバスであり、主制御部201が各部の制御を行なうために使用する。

【0046】符号221はシリアル通信コントロール部であり、HDL C等のシリアル通信の制御を行なう。

【0047】符号222～228は、アナログスイッチ部208が出力する音声信号を示している。符号222は音源部209より出力される保留音、223は音源部209より出力されるDT、BT、RBT等のコールプログレストーン、224は無線通信処理部206から出力される第1のアナログ信号および無線通信処理部206に入力される第1のアナログ信号を示している。

【0048】また、符号225は無線通信処理部206から出力される第2のアナログ信号および無線通信処理部206に入力される第2のアナログ信号、226はハンドセット210から出力されるアナログ信号およびハンドセット210に入力されるアナログ信号、227はスピーカ211に出力されるアナログ信号、228はモデム部212から出力されるアナログ信号およびモデム部212に入力されるアナログ信号である。

【0049】〔無線通信処理部の構成と動作説明〕図3に図2の制御部103の無線通信処理部206の構成を示す。以下、無線通信処理部206の構成および動作の概要につき説明する。無線通信処理部206は以下の各部より構成される。

【0050】変調部301はフレームに組み立てられ入力されるデータを変調しRF部207に出力する。復調部302はRF部207より出力される変調されたデータを復調しデジタル信号に変換する。

【0051】フレーム組立て部303は後述する各種バッファに設定されたデータをRCR-28スタンダードに定められた所定のフレームに構成する。フレーム分解部304は復調部302より出力されるフレーム情報のデジタルデータを分解しデータを取り出す。

【0052】A/Dコンバータ305はRFからのRSSTI信号を受信しアナログ/デジタル変換を行なう。レベル検出部306はA/Dコンバータ305からのデジタル信号を所定のレベルと比較を行なう。シンセ制御部307はRF部207に設けられたPLLを設定するためのデータを出力する。

【0053】主制御部I/F部308は、主制御部201と接続されたバス219を収容し主制御部201との間で制御データの書き込み・読み出しを行なう。

【0054】送信バッファ309は、データの送信を行なう場合5ms毎に送信を行なうデータを一時的に記憶しておくバッファ、受信バッファ310はフレーム分解部で分解されたデータを一時的に記憶しておくバッファである。

【0055】ADPCMインターフェース311は後述するADPCMコーデックにより32Kbpsに圧縮された音声データを所定のフレームに構成するために一時的に音声データを記憶するとともに、フレーム分解部307で分解された5ms分の音声データを一時的に記憶する。音源部312はPB信号やBT、DT等の信号および着信音等をデジタル的に記憶する。

【0056】PCMコーデック313は入力されたアナログ信号を一旦64KbpsのPCM信号にA/D変換後、データトランスコーダ/セレクト314に送出するとともに、データトランスコーダ/セレクト314からの64Kbpsのデジタル信号をA/D変換しアナログ信号としてアナログスイッチ部208へ出力を行なう機能を少なくとも2系統有する。

【0057】データトランスコーダ/セレクト314はADPCMインターフェース311へのADPCMデータ入出力信号をPCMコーデック313からPCMデータをADPCM変換して入出力するか、あるいは、PCMインターフェース316からのPCMデータをADPCM変換して入出力するかを選択するとともに、32KbpsのADPCMデータと64Kbpsのデータをトランスコードする機能を2系統有する。

【0058】データトランスコーダ/セレクト314は、さらに、データ入出力部318との間で入出力されるデータの出力先の選択も行なうとともに、PCMコーデック313とPCMインターフェース316間をスルーで64KbpsのPCM信号として接続するかのバスの選択も行なう。

【0059】アナログI/F315は、PCMコーデック313およびアナログスイッチ部208との間のアナログ入出力信号224、225のレベルの制御を行なう。

【0060】PCMインターフェース316は、64Kbpsのデータ伝送速度で、デジタルスイッチ部205およびデータトランスコーダ/セレクト314との間でPCM信号の信号の変換およびデータの入出力を行なうとともに、PCM信号の公衆網102との同期をとる。

【0061】バーストデータI/F317は、フレーム分解部304で分解されたバーストデータ信号を一時的に記憶し、32Kbpsのシリアル信号としてデータ入出力部318に出力するとともに、データ出力部318より32Kbpsで入力されたデジタルデータを所定のフレームで一時的に記憶する。

【0062】データ入出力部318は32Kbpsで入出力されるデータをADPCMデータとバーストデータにより切り換える処理を行なう。

【0063】PIAFS制御部320は、公衆網102からの着信が、非制限デジタル通信のPIAFSモードを示しているとき、デジタル回線インターフェース204、デジタルスイッチ部205を介して無線通信処理部

206のデータ入出力部318へと接続される。PIAFS通信の場合、データ入出力部318では通信バスをPIAFS制御部320に接続し、PIAFS制御部320が受信するデータ中の所定のフレームを検出し、データを取り出すことによりデータ通信を行なう。

【0064】図4は、図2および図3のアナログスイッチ部208の構成を示している。アナログスイッチ部208は、スイッチ制御部431を有する。スイッチ制御部431は、主制御部201の制御に基づき図2および図3に示したアナログ信号222～228のバス制御を行なう。

【0065】スイッチ制御部431は、スイッチ401～430をON/OFFしアナログ信号のバス制御を行なうが、その際、図示したスイッチマトリクスの交点にあるスイッチ401～430をONにすることにより、アナログ信号222～228のバス制御が行われる。たとえば、無線通信処理部206からのアナログ出力1(224)をモデム212へつなぐアナログ入力228と接続するため、スイッチ415をONとする。

【0066】図5は本システムにおける表示部214およびキー入力部213をオペレーションパネルとしてパネルで構成したときの外観を示している。

【0067】図5において符号501は各種機能設定を開始させるための機能キー、502は回線の使用状況や機能の設定時の表示を行なう表示パネル、503は回線の保留を行なうための保留キー、504はファクシミリ送信を促す送信キー、505はファクシミリ受信を促す受信キー、506は機能設定時モードを変更するためのセレクトキー、507はセレクトしたモードをセットするためのセットキー、508はダイヤル情報を入力するためのテンキーである。

【0068】上記のうち、表示パネル502は、本発明に係る三者通信中の回線の表示、選択などのために用いられる。

【0069】以下、上記構成における動作につき詳細に説明する。図6は本システムを用いて三者通話を行なう時の制御の概略を示している。

【0070】本実施形態では、便宜上、第1通信に使用する通信チャネルをISDNのB1チャネル、第2通信に用いる通信チャネルをB2チャネルとする。

【0071】主制御部201は、検出部215よりハンドセット210のオフフック情報を受信すると、第1の通話ありと判定し(ステップS101)、使用する回線チャネルを決定し(本実施形態ではB1チャネルを使用)、さらにアナログスイッチ208(図4)を制御しスイッチ409をONし400Hzのダイヤルトーンをハンドセット210へ出力する。

【0072】さらに、ステップS101の後、テンキー508よりダイヤル番号が入力されると、表示パネル502にダイヤル番号を表示するとともに、デジタル回線

I/F204を制御し、テンキーなどから入力されたダイヤル番号を用いて発呼処理を行なう。この発呼処理後、相手端末100(図1)より応答があると、主制御部201はデジタルスイッチ部205、無線通信処理部206間のデジタル通話バスを接続し、無線通信処理部206からのアナログ信号224を用いてアナログスイッチ部208を介してのアナログ信号224、226の入出力を行なう(ステップS102)。

【0073】ここで、図2、図3を用いて通話時の動作の詳細を説明する。主制御部201は、デジタルスイッチ部205からのデータ信号をPCMインターフェース316に入力し、さらにデータランスコード/セレクト314をPCMスルーでPCMコーデック313に接続するように制御する。PCMコーデック313では受信したPCMのデータ変換をD/A変換し、アナログスイッチ部208へ出力する。

【0074】また、アナログスイッチ部208からのアナログ信号224はPCMコーデック313により64KbpsのPCMデータにA/D変換され、データランスコード/セレクト314を介してPCMインターフェース316からデジタルスイッチ部205へ送出される。

【0075】また、主制御部201は、アナログスイッチ部208を制御し、トーンの送出をOFF(スイッチ409をOFF)し、無線通信処理部206からの第1のアナログ信号224をハンドセット210のアナログ入力226に接続する(スイッチ414をON)。またハンドセット210からのアナログ信号226を無線通信処理部206の第1のアナログ入力224に接続する(スイッチ422をON)。

【0076】このようにして、ハンドセット210～アナログスイッチ部208～無線通信処理部206～デジタルスイッチ部205～デジタル回線I/F204～公衆網102が接続され、第1の通話が成立する。

【0077】第1の通話中に三者通話を行なう場合、まず機能キー501(図5)を押下する。このとき、表示パネル502で表示した適当なメニューからセレクトキー506を用いて三者通話を選択し、セットキー507を押下することで三者通話開始処理を開始する(ステップS103)。

【0078】三者通話開始処理が開始されると、図5に示すように、主制御部201が表示パネル502に「回線1：」、および「回線2：」などのように、回線(それぞれISDNの2つのBチャネルに相当)の使用状態を表示させるとともに、その内空いている回線(本実施形態では回線2)にカーソル表示し、ダイヤル番号の入力を促す。また、アナログスイッチ414、422をOFFとし、さらにスイッチ402をONし第1の通話相手100に対して保留音を送出する。また、スイッチ409をONし、DT(ダイヤルトーン)をハンドセッ

ト210に出力する。そして保留キー503または表示パネル502で保留中であることを通知する(ステップS104)。

【0079】その後、上述と同様に、ダイヤル番号の入力およびB2チャンネルを用いた発呼処理が行なわれ、相手端末101より応答があった場合、主制御部201は無線通信処理部206の2つのPCMコーデック313、データトランスコーダ/セレクタ314、アナログI/F315、PCMインターフェース316を制御する。

【0080】さらにアナログスイッチ208を制御し、音源部209からのトーン信号223を停止して、無線通信処理部206からの第2のアナログ信号225をハンドセット210のアナログ入力226に接続する(スイッチ409をOFF、スイッチ419をONとする)。またハンドセット210からのアナログ信号226を無線通信処理部206の第2のアナログ入力225に接続する(スイッチ423をON)。このような処理により第2の通話が成立する。第2の通話成立後、主制御部201が保留キー503の押下を検出すると(ステップS105)、スイッチ402をOFFし、再度アナログスイッチ414、422、およびスイッチ413、417をONすることでハンドセット210を用いて相手端末100、101との三者通話が可能となる(ステップS106)。

【0081】本実施形態においては、2通話とも制御局103より発呼を行ったが、着信による通話から三者通話に移行する場合においても上記と同様の操作、および接続処理を行えば良い。

【0082】さらに、図7に三者通話中にファクシミリを相手端末100(B1チャンネル)に送信する場合の制御を説明する。すなわち、非標準プロトコルを用いることなく、通話中の相手に対して別の通信、ここではファクシミリ送信を行なう。

【0083】図7では、三者通話に用いている2つのBチャンネルに空きが生じればそれを用いるが、空きが無ければユーザにファクシミリ送信を行なう回線を選択させ、その回線を用いてチャンネルを用いて(その回線(チャンネル)で接続されている相手に)ファクシミリ送信を開始する。

【0084】すなわち、主制御部201は、三者通話中にシステムの状態を監視し(ステップS201)、フック検出部215からのハンドセット210のオフフック信号、または相手端末100、101の切断により三者通話が終了したことを検出すると(ステップS202)、デジタル回線1/F204を制御し切断、解放等のコマンドのやり取りを行ない、公衆網102を用いた通信を終了する(ステップS213)。本システム側、または相手端末100、101からの切断を検出しない場合は(ステップS202)、原稿検出部218の出力

を調べ、送信原稿があることを示す検出信号が出力されているかどうか判定する(ステップS203)。

【0085】三者通話中に原稿検出部218よりデータ送信を行なうための送信原稿がセットされたことを示す信号を主制御部201が受信すると、キー入力部213から回線選択情報を入力する。

【0086】この時、原稿がセットされていると、主制御部201は表示部214(表示パネル502)の「回線1:」または「回線2:」の表示とともにカーソルを表示し、ダイヤル番号入力可能な状態とする。また、「回線1:」または「回線2:」のいずれかにダイヤル番号入力を行なうか、ユーザがセレクトキー506の上、あるいは下矢印キーを押下することで選択する(ステップS204)。

【0087】ここで、ユーザは、新規番号を入力することで、三者通話とは無関係の相手にファクシミリを送信できる。

【0088】また、新規番号を入力せずにセレクトキー506を押下(後述のステップS214)することで、回線の1つを用いて通話している同じ相手を選択し、その相手にファクシミリを送信する。この場合は、回線は解放せず、既に成立している音声通信チャンネルを用いてG3ファクシミリ通信を行なう。

【0089】すなわち、ステップS204の後、キー入力部214のテンキー508よりダイヤル番号の入力がない場合は(ステップS205)、カーソルで回線が選択された状態で、セレクトキー506が押下されるかを検出する(ステップS214)。セレクトキー506が押下されない場合は回線の監視処理を継続する(ステップS201)。

【0090】ステップS214でセレクトキー506が押下された場合、主制御部201は表示パネル502のカーソルにより指定された回線がファクシミリ送信に用いるべき回線であると判断し、アナログスイッチ部208を制御する(ステップS215)。すなわち、ファクシミリ信号を送信するモデム部212からのアナログ出力228を無線通信処理部206のアナログ入力224に接続するためスイッチ427をONとする。また、無線通信処理部206からのアナログ出力224をファクシミリ信号を受信するモデム部212のアナログ入力228に接続するためスイッチ415をONとする。ただし、この時点ではハンドセット210による三者通話を保持する。

【0091】ステップS215の後、主制御部201がキー入力部213のファクシミリ送信キー504の押下を検出すると(ステップS216)、アナログスイッチ208を制御し三者通話を終了し、2Bチャンネルの1つを用いてファクシミリ通信を行なう。この時、アナログスイッチ208の制御では、B2チャンネルの通話にモデム信号の音が入らないように、無線通信処理部206

のアナログ出力225からモデム部212間のアナログ出力228のパスを切り離す。具体的にはスイッチ413、414、417、422をOFFとする。なお、この時モデム信号をモニタするためステップS411をONし、スピーカ211にモデム信号を送出するようにしてもよい。このようなスイッチ制御の後、相手端末100との間でファクシミリ送受信を行なう。すなわち、読取部217で読み取った原稿データを符号化し、モデム部212で変調して、T30プロトコルのアナログファクシミリ手順により送信する(ステップS217)。

【0092】この時、相手側は、後述の図8の制御を行なうことによりファクシミリ受信に移行するか、TAなどのアナログインターフェースにファクシミリ一体型のアナログ電話機などの端末を接続している場合には、その端末をファクシミリモードに切り換えることによってファクシミリ受信を行なえる。

【0093】一方、送信原稿を検出し、使用する回線が選択された上、キー入力部214のテンキー508より新しいダイヤル番号が入力されている場合(ステップS205)には、主制御部201はデジタル回線I/F204を制御し、選択した回線に対して切断処理を行いチャネルを解放する。ここで、アナログスイッチ部208の制御においては、無線通信処理部206への出力224およびハンドセットへの出力226をOFFとする。具体的にはスイッチ413、414、417、422をOFFとする(ステップS206)。テンキー508から新規のダイヤル番号が入力していれば(ステップS207)、ファクシミリ送信キー504が押下されたかを検出する(ステップS208)。

【0094】ここでファクシミリ送信キー508が押下されると、主制御部201は原稿読取部217を制御し送信原稿を読み取る。読取が完了すると入力されたダイヤル番号を基にデジタル回線I/F204を制御し、他の端末108(図1)へのT30プロトコルを用いた発呼を行なう(ステップS209)。発呼後、他の端末108からの応答を確認した場合は、デジタル回線I/F204を制御しチャネルを接続し、アナログスイッチ208を制御してモデム部212からのアナログ出力信号228を無線通信処理部206のアナログ出力224と接続する。具体的にはスイッチ415、427をONとする。これにより相手端末とアナログ的に接続され、モデム部212による、T30プロトコルを用いたファクシミリ通信を開始する(ステップS209)。

【0095】以上の処理により、ステップS211においてモデム部212による通信が開始されトレーニング信号等により通信が可能であると判断すると、2Bチャネルを用いたファクシミリ通信および音声通話を継続する(ステップS212)。

【0096】以上では、三者通話中にファクシミリ通信

を開始する例を示したが、もちろんモデムが他の方式のデータ通信を行なうものであれば、ファクシミリ以外のデータ通信を行なえるものはいくつまでもない。

【0097】以上のようにして、三者通話中にデータ通信を開始することができ、非標準プロトコルを用いることがないので、簡単に実施でき、また、機器間の互換性を損なうことがない。

【0098】以下、図8のフローチャートを用いて三者通話中に相手端末100(B1チャネルを用いた通信)からファクシミリを受信する場合の動作を説明する。図8の手順により、図7の手順により開始されたファクシミリ送信を受けることができる。

【0099】図8において、主制御部201は、三者通話中にシステムの状態を監視し(ステップS301)、フック検出部215からの検出信号により、ハンドセット210のオンフック検出、または相手端末100あるいは101(図1)の切断により三者通話が終了したことを検出すると(ステップS302)、デジタル回線I/F204を制御し切断、解放等のコマンドのやり取りを行い、公衆網102を用いた通信を終了する(ステップS310)。

【0100】一方、システムまたは相手端末100、101からの切断を検出しな場合は(ステップS302)、三者通話中の相手端末100、101からのファクシミリ送信があるかを検出する。この検出処理は三者通話を行っている時に無線通信処理部206からのアナログ出力1(224)とアナログ出力2(225)を合成して、常にモデム部212へのアナログ出力228へ信号を入力する。具体的には三者通話時のスイッチに加えて、スイッチ415、420をONする。

【0101】そして、モデム部212から、モデム信号を受信したことを示す信号が出力されている場合(ステップS303)は、このままでは無線通信処理部206のアナログ出力1または2のどちらかがファクシミリ送信かがわからなため、ステップS304において、主制御部201はアナログスイッチ208を制御し、アナログ出力1(224)のみをモデム部212に接続するようにする。(スイッチ420をOFFとする)。該処理の結果相手端末からのモデム信号を受信できた場合は、B1チャネルを用いたファクシミリ受信を行なうための処理を行なう。また、ステップS303において前記処理の結果モデム信号を受信できなかった場合は、アナログ出力2(225)をモデム部212へのアナログ入力(228)へ接続する(スイッチ415をOFF、スイッチ420をONとする)。相手端末からのモデム信号を受信できた場合は、B2チャネルを用いたファクシミリ受信を行なうための処理を行なう。

【0102】以上のようにしてファクシミリ送信を行なう回線の選択が完了し(ステップS305)、B1チャネルよりファクシミリのモデム信号を受信したことを主

制御部201が検出すると(ステップS306)、モデム部212への入出力信号228を無線通信処理部206のアナログ入出力2(225)から切り離し、相手ファクシミリからの送信データを受信するための処理を開始する(ステップS307)。この時、アナログスイッチ208はスイッチ413、414、417、422をOFFとする。その後、相手端末100とT30プロトコルを用いた着信処理を行い、通信速度の整合を行い通信が可能であると判断した場合は(ステップS308)、B1チャネルを用いてファクシミリ通信およびB2チャネルを用いての音声通話の2Bを用いた通信を行う(ステップS309)。

【0103】図8のファクシミリ受信も、モデムを用いた他のデータ通信に置換できるというまでもない。

【0104】以上のようにして、三者通話中にBチャネルの1つからモデム信号を検出すると(ステップS303)、自動的にデータ通信(ファクシミリ受信)に移行することができる。

【0105】すなわち、本実施形態によれば、ISDNの2Bチャネルを用いて三者通話を行っている際、三者通話を終了させることなく、通話相手とT30ファクシミリプロトコルなど標準のプロトコルを用いたデータ送受信を行なうことができ、簡便安価に三者通話を行なうとともに、しかもその通話中に容易な操作により、高い互換性で簡便安価にファクシミリ通信などのデータ通信を行なえる。

【0106】また、ファクシミリ送信すべき原稿を検出した際、自動的に回線選択手順を開始するようにしているため、ユーザの操作が極めて容易になる利点がある。

【0107】また、回線が選択された後、キー操作によりダイヤル情報が入力された場合、選択した回線を切断し、空いた回線を用いてデータ通信を行なうようにしているため、三者通話を行っている相手以外とも簡単にファクシミリなどのデータ通信を行なうことができる。

【0108】また、データ通信のモデム信号を検出して受信に移行するようにしているため、再度回線を接続することなくファクシミリなどのデータ通信を行なえる。

【0109】「第2の実施形態」上記実施形態においては、ファクシミリ受信を自動的に行なうように記載したが、ファクシミリ受信を手動で行なうことも可能である。

【0110】図8のフローチャートにおいて、三者通話中に手動で受信する場合は、通話中にハンドセット210から聴取した通話の内容などから相手端末100からファクシミリ送信が行われるとユーザが判断した場合は(ステップS303)、セレクトキー506を用いて表示パネル502のカーソルを移動し、回線1にカーソルを設定する(ステップS304)ことにより手動でファクシミリ受信に向かう分岐を行なう。

【0111】ユーザがセットキー507の押下により回

線1を選択すると、主制御部201は回線1を用いた処理を行なうことを認識し(ステップS305)、その後、ユーザがハンドセット210より相手端末100からのファクシミリ送信信号を認識し、キー入力部213の受信キー505を押下すると、主制御部201はT30プロトコルを用いた受信処理を回線1を用いて行なう。この時、アナログスイッチ208の制御は、受信キー505押下時にスイッチ413、414、417、422をOFFとし、ファクシミリ通信中はモデムの音声信号がハンドセットに出力されないようにする。

【0112】以上のようにして、ユーザは回線表示を視認した上、手動回線選択操作を行なうことにより、三者通話から手動でデータ通信(ファクシミリ受信)に移行することができる。この場合もファクシミリ受信はモデムを用いた他のデータ通信に置換することができる。

【0113】以上では、制御部の構成としてファクシミリ機能およびPHS/PIAFSによる内線システムの交換機能を内蔵した通信装置を示したが、本発明は機器の構成にかかわらず実施できるものはいくつまでもない。すなわち、ISDNの2Bチャネルを用いて三者通話を行なうとともに、通話以外のデータ通信機能を有する通信装置であれば本発明は実施できる。たとえば、パーソナルコンピュータのような汎用の端末にISDN通信カードを装着し、ソフトウェア制御により通話およびファクシミリ通信を行なうような構成においても実施することができる。

【0114】本発明の制御プログラムは、ROM202のみならず、ハードディスク、フロッピーディスク、光ディスク、光磁気ディスクやメモリカードなどのあらゆるコンピュータ読み取り可能な記録媒体に格納して供給することができる。

【0115】

【発明の効果】以上説明したように、ISDN(統合サービスデジタル網)のようなデジタル公衆回線インタフェースを収容し、少なくとも1つの内線電話機能およびデータ通信機能を備えた通信装置、その制御方法、およびその制御プログラムを格納したコンピュータ読取可能な記憶媒体において、発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御、および発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御を行ない、前記第1および第2の通信を用いて三者通話を行なわせ、前記三者通話中にデータ送信すべきデータの有無を検出し、前記第1の通信および第2の通信の回線情報を表示するとともに、前記表示工程で表示される情報を基にデータ送信を行なう回線を選択し、前記回線選択工程により選択された回線に対してデータ送信を行なう構成を採用しているため、2Bチャネルを用いて三者通話を行っているときに、三者通話を終了させることなく、通話相手とT30ファクシミリプロトコルなど標準のプロトコルを用いたデータ送受信

を行なうことができ、三者通話中に容易な操作により、高い互換性で簡単安価にファクシミリ通信などのデータ通信を行なえる、という優れた効果がある。また、非標準のプロトコルおよびハードウェアを用いることがないため、簡単安価に実施でき、互換性を損なうことなく多様な相手端末との間で三者通話およびデータ通信を行なうことができる。

【0116】あるいはさらに、前記データ通信がアナログモデム信号を用いるファクシミリ通信であり送受信されるデータがファクシミリ画像データである構成によれば、三者通話を行なうとともに、しかもその通話中に容易な操作により、高い互換性で簡単安価にファクシミリ通信を行なうことができる。

【0117】あるいはさらに、ファクシミリ送信すべき原稿を検出した際、前記回線選択を行なう構成によれば、ユーザの操作が極めて容易になる利点がある。

【0118】あるいはさらに、前記回線選択により回線が選択された後、ダイヤル情報を入力するキー入力手段よりダイヤル情報が入力された場合、前記回線選択により選択した回線を切断し、空いた回線を用いてデータ通信を行なう構成を採用しているので、三者通話を行っている相手以外にも簡単にファクシミリなどのデータ通信を行なえ、さらに装置の操作性を向上することができる。

【0119】あるいは、発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御、および発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御を行ない、前記第1および第2の通信を用いて三者通話を行なわせ、前記第1の通信および第2の通信のモデム信号を検出し、前記モデム信号の検出結果に基づきデータ受信を行なう回線を選択し、選択された回線からのデータ受信を行なう構成を採用すれば、容易な操作により、簡単安価かつ高い互換性で、三者通話中にデータ通信のモデム信号を検出して受信に移行することができ、再度回線を接続することなくファクシミリなどのデータ通信を行なえる、という優れた効果がある。

【0120】あるいは、発信または着信時にBチャネルを接続し第1の通信を行なう第1の通信制御、および発信または着信時にBチャネルを接続し第2の通信を行なう第2の通信制御を行ない、前記第1および第2の通信を用いて三者通話を行なわせ、前記第1の通信および第2の通信の回線情報を表示し、表示される情報を基にデータ受信を行なう回線を選択し、選択された回線からのデータ受信を行なう構成を採用すれば、容易な操作により、簡単安価かつ高い互換性で、三者通話中にユーザは回線表示を確認した上、手動回線選択操作を行なうことにより、三者通話から手動でデータ受信に移行すること

ができる、という優れた効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を採用した通信システムの構成を示したブロック図である。

【図2】図1の制御部の内部構成を示したブロック図である。

【図3】図2の無線通信処理部の内部構成を示したブロック図である。

【図4】図2、図3のアナログスイッチ部の内部構成を示したブロック図である。

【図5】図2の表示部およびキー入力部の構成例を示した説明図である。

【図6】三者通話の制御手順を示したフローチャート図である。

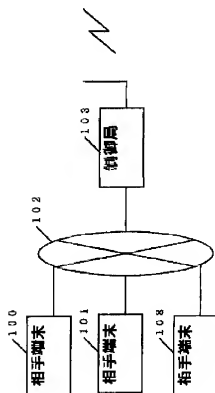
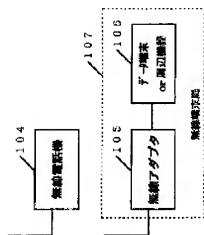
【図7】三者通話時に相手端末へファクシミリ送信を行なう場合の制御手順を示したフローチャート図である。

【図8】三者通話時にファクシミリ受信を行なう場合の制御手順を示したフローチャート図である。

【符号の説明】

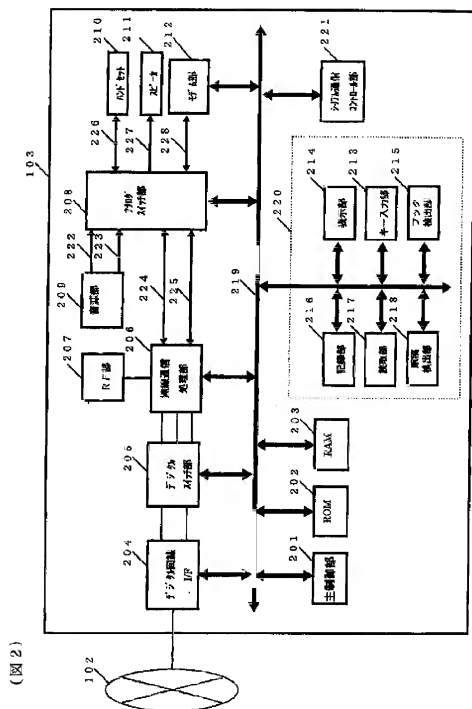
103	制御局
104	無線電話機
106	データ端末または周辺機器
107	無線端末局
201	主制御部
202	ROM
203	RAM
204	デジタル回線インタフェース
205	デジタルスイッチ部
206	無線通信処理部
207	RF部
208	アナログスイッチ部
209	音源部
210	ハンドセット部
212	モデム部
213	キー入力部
214	表示部
215	フック検出部
216	記録部
217	読取部
218	原稿検出部
219	バス
222	保留音
223	コールプログレストーン
224	アナログ入出力1
225	アナログ入出力2
226	ハンドセットへのアナログ入出力
227	スピーカへのアナログ信号
228	モデム部へのアナログ入出力

【図1】

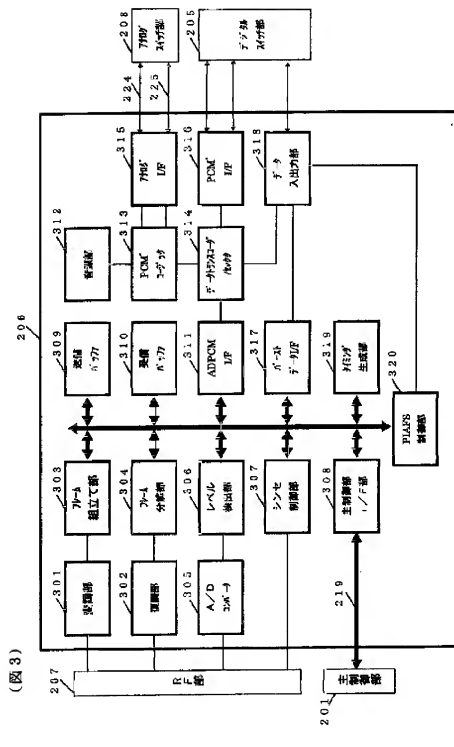


(図1)

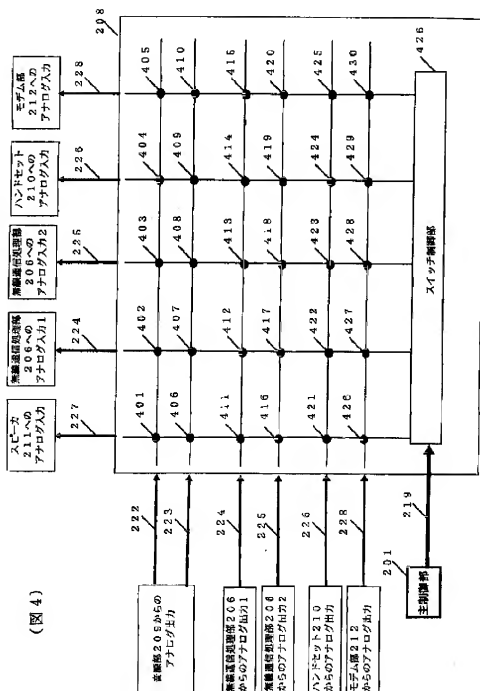
【図2】



【図3】

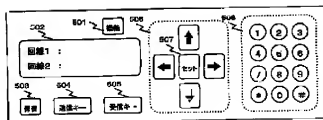


【図4】

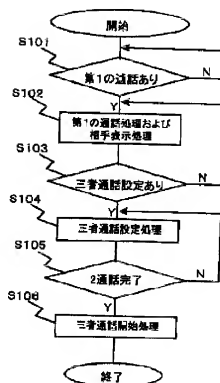


【図5】

(図 5)



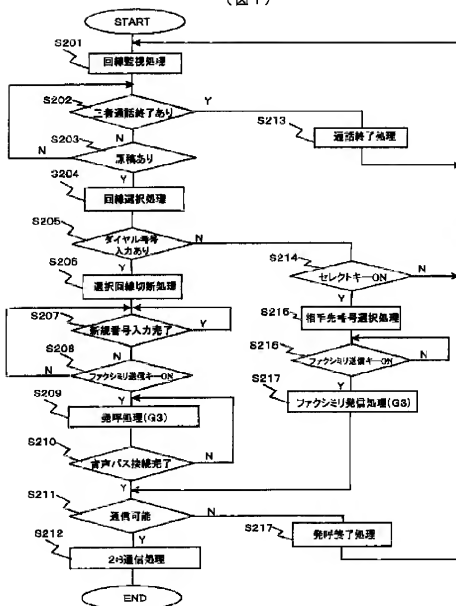
【図6】



(図 6)

【図7】

(図 7)



【図8】

(図 8)

